

■守山駅東口が目指すまちの将来像について

守山駅東口が目指すまちの将来像を考えるにあたり、「市の上位計画」や「社会・都市をめぐる潮流」「東口周辺の現況や特色」「東口周辺の課題」の4つの視点を踏まえるなか、コンセプトを整理した。

《コンセプト》

人が集まりつながる 憩いとにぎわいのあるまち

守山駅周辺は守山市の中心商業地として、文化・交流・賑わいの核となる中心拠点区域を形成し、行政、商業、文化、医療・福祉、業務および交通結節点等の多様な都市機能の集積を図るエリアに位置づけられている。

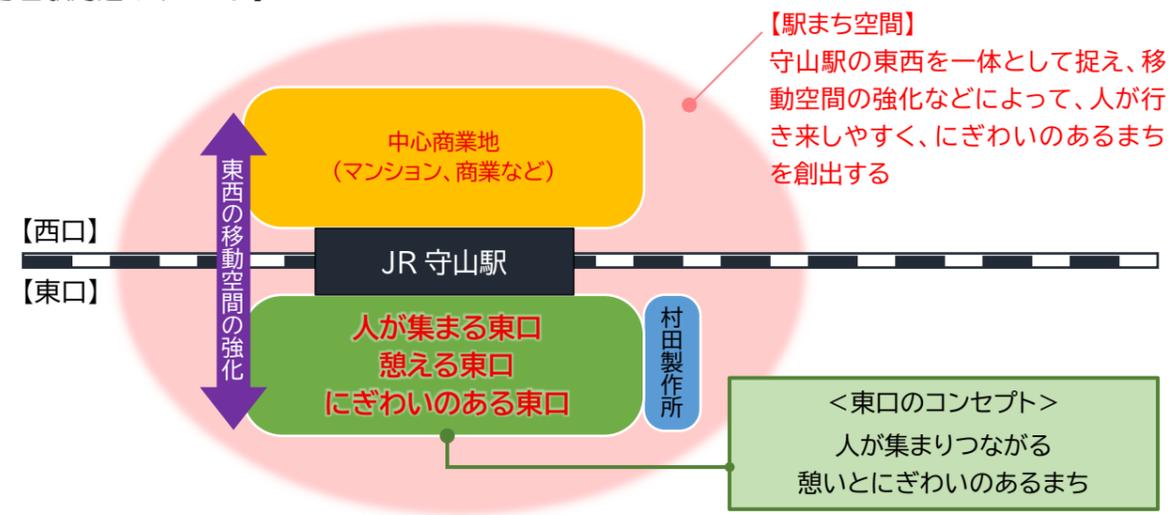
その実現に向けて、駅周辺の限られた土地のなかで多様な都市機能の集積を図るためには、東口と西口それぞれの特色や課題を踏まえながら、東口と西口とで機能の役割分担を図りつつ、連携することが重要である。

西口周辺には、マンション等の住宅や、商業施設が立地しており、市の中心商業地としての役割を担っている。人口増加の影響もあり、駅利用者は年々増加傾向にあることから、ロータリーを含めた駅周辺においては、特に雨天時の朝夕の時間帯に交通渋滞が生じているなど、まちの発展に伴う課題も出てきている。今後、西口の特徴や役割である中心商業地としての更なる発展に取り組んでいくためには、渋滞などの課題解決も合わせて検討していく必要がある。

東口周辺には、マンションや戸建て住宅、工場等の施設が主に立地している。令和8年度には株式会社村田製作所の研究開発拠点施設「守山イノベーションセンター」が開業することにより東口周辺の人流の増加が見込まれるなかで、それを活かし相乗効果が発揮できる都市機能の導入や、にぎわいを生み出す取組、また、国でも進められているこどもをまんなかにおいたまちづくりの考え方を通して、**人が集まる東口**にしていくことが重要である。一方で、アンケート調査やワークショップで意見があったように、これまでからの東口の良さである落ち着いた雰囲気や憩いの空間は特徴として今後も守り続けていく必要があることから、にぎわいだけではなく、**憩える東口**にしていくことも必要である。

また、東口と西口を分けて捉えるのではなく、一体的な「駅まち空間」として捉えることで、東西連携や機能分担による相乗効果が期待できる。そのためには、東西をつなぐ移動空間の強化により人が行き来しやすい環境をつくることが重要である。

[守山駅周辺のイメージ]



【目指すまちの将来像を導き出す視点】

① 市の上位・関連計画における守山駅周辺の位置づけ

○第5次守山市総合計画 2021 改訂版 (令和3年3月)

[基本構想・土地利用の方針]
・JR守山駅周辺に、文化・交流・賑わいの核となる商業地の中心拠点区域を配置します。また、ライフスタイル・ワークスタイルの変化を踏まえ、歩きやすいまちづくりを進めるとともに、リノベーションまちづくりによる起業・創業や就労の場づくりを進めます。

[土地利用構想図]



○守山市都市計画基本方針

(守山市都市計画マスタープラン) (令和4年10月一部改定)

[土地利用の方針・中心商業地(中心拠点区域)]
・JR守山駅周辺を含む中心商業地(中心拠点区域)では、本市の玄関口にふさわしい、文化・交流・にぎわいの核となる中心拠点区域を形成し、行政、商業、文化、医療・福祉、業務および交通結節点等の多様な都市機能の集積を図ります。

② 社会・都市をめぐる潮流

○魅力ある駅前広場整備のための視点「駅まち空間」

・駅やロータリーなど個別に検討していくのではなく、鉄道事業者、地方公共団体、市民等の関係者が連携し、一体的に検討していくことにより、利便性・快適性・安全性・地域性が高いゆとりある空間を形成する

[駅まち空間のイメージ]



○持続可能なまちづくり(住み続けられるまちづくり)

・Well-beingの向上(健康の増進、良好な子育て環境等)
・気候変動への対応(都市緑化等によるCO2の吸収等)
・コンパクトシティ など

○ウォークラブルなまちづくり

・居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成

○こどもや子育てにやさしいまちづくり

・国では令和6年度から、「こどもまんなかまちづくり事業」や「こどもまんなか公園づくり支援事業」を創設し、こども・子育てにやさしいまちづくりを支援

③ 東口周辺の現況や特色 ※アンケート調査・ワークショップ

- 落ち着いた雰囲気があり、街並みが良く、静かで暮らしやすい。
- 村田製作所研究開発拠点施設の整備など東口周辺には企業などがあり、働きやすい環境である。
- 西口に比べて一般車での利用がしやすく、駅前広場(ロータリー)までの通行や送迎がしやすい。

④ 東口周辺の課題 ※現況課題の整理より

- 課題1 西口との連携をふまえた魅力やにぎわいの向上に寄与する都市機能の導入
- 課題2 交通利便性の向上に向けた駅前広場(ロータリー)の再整備
- 課題3 東西の移動における利便性・快適性の向上

《ビジョン（まちづくりの方向性）》

《コンセプト》

人が集まりつながる 憩いとにぎわいのあるまち

コンセプトに沿ったまちづくりを進めていくにあたり、東口のポテンシャルを活かしながら取り組んでいく「ビジョン（まちづくりの方向性）」を次のとおり整理した。

【ビジョン①】

落ち着きとにぎわいが共存するまちづくり

東口の魅力である落ち着いた雰囲気を活かしながら、市民や駅利用者、周辺で働く人、市外から訪れた人などが、ゆったりとくつろいだり、待ち時間を快適に過ごせる空間と、地域の活性化につながるにぎわいが共存するまちを目指します。

例)
散歩中や待ち
時間などに
休息できる



例)
友達などと
会話や食事
ができる



例)
帰りに趣味
の活動が
できる



例)
学生が放課後
に自習できる



例)
待ち時間に
仕事ができる



例)
子供を
預けること
ができる



【ビジョン②】

働く場・働く人を応援するまちづくり

新たな働く場として、令和8年度に予定される株式会社村田製作所の研究開発拠点施設「守山イノベーションセンター」と相乗効果が生まれる企業の誘致を行うことや、子育て支援や Well-being を実現する環境づくりなどにより、働く人を応援できる魅力的なまちを目指します。

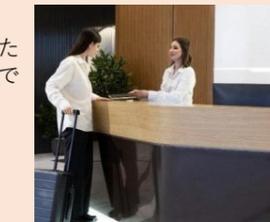
例)
働く場の
創出
(企業誘致)



例)
働く人が
会社帰りに
買い物できる



例)
出張に来た
人が宿泊で
きる



【ビジョン③】

子どもから大人まで多世代が集まりつながるまちづくり

子どもや子育てにやさしいまちづくりを進めるなかで、子どもから大人まで多世代が気兼ねなく交流できる場を創出し、市民や地域のつながりが深まるまちを目指すとともに、西口からも行ってみたいと思えるまちを目指します。

例)
子供が遊べる



例)
週末などに
イベントが
あり楽しめる



【ビジョン④】

安全で利用しやすい交通環境の実現によるまちづくり

歩行者、自転車のアクセス動線や、バス、タクシー等の公共交通、一般車の交通動線を整理することで、誰もが利用しやすく、安全で快適な駅前広場を目指します。

例)
歩行者や自転
車で安全に駅
まで行ける



例)
自家用車やタ
クシー、バス
で駅までアク
セスしやすい



【ビジョン⑤】

快適な東西移動とアクセス性が高いまちづくり

歩行者などの線路を跨ぐ移動の利便性を向上させることにより、駅周辺における東西の人の動きや交流が盛んになるまちを目指します。また、東口においても、それぞれのエリアごとの移動や駅までのアクセスが便利なまちを目指します。

例)
通行しやすい
自由通路



例)
通行しやすい
駅舎のコンコ
ース

